

田光神社の楠

名古屋市大滝子キャンパスから真っすぐ南に向かって歩くと、遠くの方に大木が見えてくる。瑞穂区大喜新町にある田光（たこう）神社（八幡社）の楠である。

サイトで検索すると、田光神社は782年に熱田神宮の神官である守部公彦正が創建。熱田神宮の真東の鎌倉街道沿いにあり、熱田神宮の遙拝所であったと伝えられている。由緒ある神社だ。

田光神社の楠はじつに見事な大木だ。案内板「弘法七本楠の由来」によると、その昔、千二百年前、弘法大師が巡錫の際、熱田神宮に五本、古井の坂に一本、田光神社に一本、お手植えになったと伝えられる由緒ある楠で、尾張名所図絵に記載されている名木。根方には白蛇が棲んでいると伝えられている。樹齢、約千有余年。直径、約三米。この楠は1996年に名古屋市の都市景観重要建築物等(都市景観保存樹)に指定されている。

熱田神宮に五本、古井の坂に一本というのが興味深い。田光神社から西に行くと、熱田神宮に出る。また、田光神社をまっすぐ北に行くと、「郡道」の終着点でもある古井ノ坂に出る。「郡道」については、昨春に何回かレポートに書いた。地理的に見ても、弘法大師がお手植えされた七本の楠の位置が注目される。

田光神社の境内には、もう一つ見どころがある。写真下の奥の方に見える木である。

案内板に次のように書かれている。「和合の木
いつの頃からか、この異質の二本の木は、交わり合って長き年月を経ています。夫婦円満、子授け、そして浮気封じに靈験あらたかだと云い伝えがあります。丑満刻に中央の輪を潜る(木を七廻り半する)と子供が授けられると古文書は伝えています。」

ここは京ちゃんご一家が初詣に訪れた神社だ。こじんまりとした、まちなかの神社だが、こんなに歴史があるとは驚きだ。名市大滝子キャンパスから「ウェルネスはやし鍼灸院」に向け歩いた時に見つけた、まさに「癒しの、はやしのスポット」である。これからも訪ねてみたい。



(2016年1月20日)